「レセプト等情報を用いた脳卒中、脳神経外科医療疫学調査
J-ASPECT study」のお知らせ

超高齢化社会の我が国において、後遺障害による寝たきりの原因となる脳卒中の救急治療は大きな課題となっています。高齢者医療費の最大の原因である脳卒中の患者さんの数は今後も更に増加し、2020 年には 300 万人に達すると予想されています。緊急性の高い脳卒中治療については、医療機関の集約化、広域化と連携強化が重要となりますが、地域特性に応じた整備のためには、全国的な規模での地域ごとの実態を調査することが必要です。また地域における脳卒中治療の拠点となる包括的脳卒中センターに必要な人的、物的資源の現状についても調査する必要があります。脳卒中急性期医療の質が、脳卒中および循環器病の発症、再発など長期予後に与える影響が明らかでないため、今回脳卒中、脳神経外科及び共通のリスクを有する循環器病治療に関する大規模データベースを構築し、その実用性、妥当性を検証する研究が計画され当院も参加しています。

＜調査対象＞当院で 2025 年 3 月 31 日の間に脳卒中・脳神経外科・循環器病関連の治療を受けられた患者さん

＜調査期間＞2026 年 3 月 31 日までを予定しています。

＜研究責任者＞国立循環器病研究センター　病院長　飯原　弘二

＜調査内容＞性別、生年月日、自宅の郵便番号、発症年月日、入院日、退院日、入院経過、併存疾患、脳卒中・脳神経外科・循環器病関連の治療内容、入院前の生活状態の指標であるスコア、リハビリテーションの有無、退院時の生活状態の指標であるスコア、退院先、処方薬などの情報を収集します。これらの患者さんの情報は、DPC データ、レセプトデータを使用します。DPC やレセプトとは、日本における医療費の請求・支払いに使用される、全国共通のものです。

本研究は当院の倫理・臨床研究審査委員会で承認されています。研究で集めたデータは研究責任者に提供します。また、学会や出版物として公表することがありますが、個人が特定できないような形で使用しますので、あなたのプライバシーは守られます。本研究で得られたデータを将来脳卒中や循環器疾患の研究のために二次利用する場合や、研究計画書を変更する場合がありますが、その場合は改めて当院の倫理・臨床研究審査委員会で承認を受けて実施します。

本研究の趣旨をご理解いただき本研究に参加をお願いします。もし参加を望まれない場合は研究から除外しますので担当医師にお申し出ください。研究が始まった後でも自由に参加を取りやめることができますのでその際も担当医師にお伝えください。ご協力いただけない場合でも、今後の診療に不利益はきたしません。また、ご質問がある場合も担当医師にお伝えください。ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします

2022 年 1 月 11 日

脳卒中センター　所長　中嶌　教夫